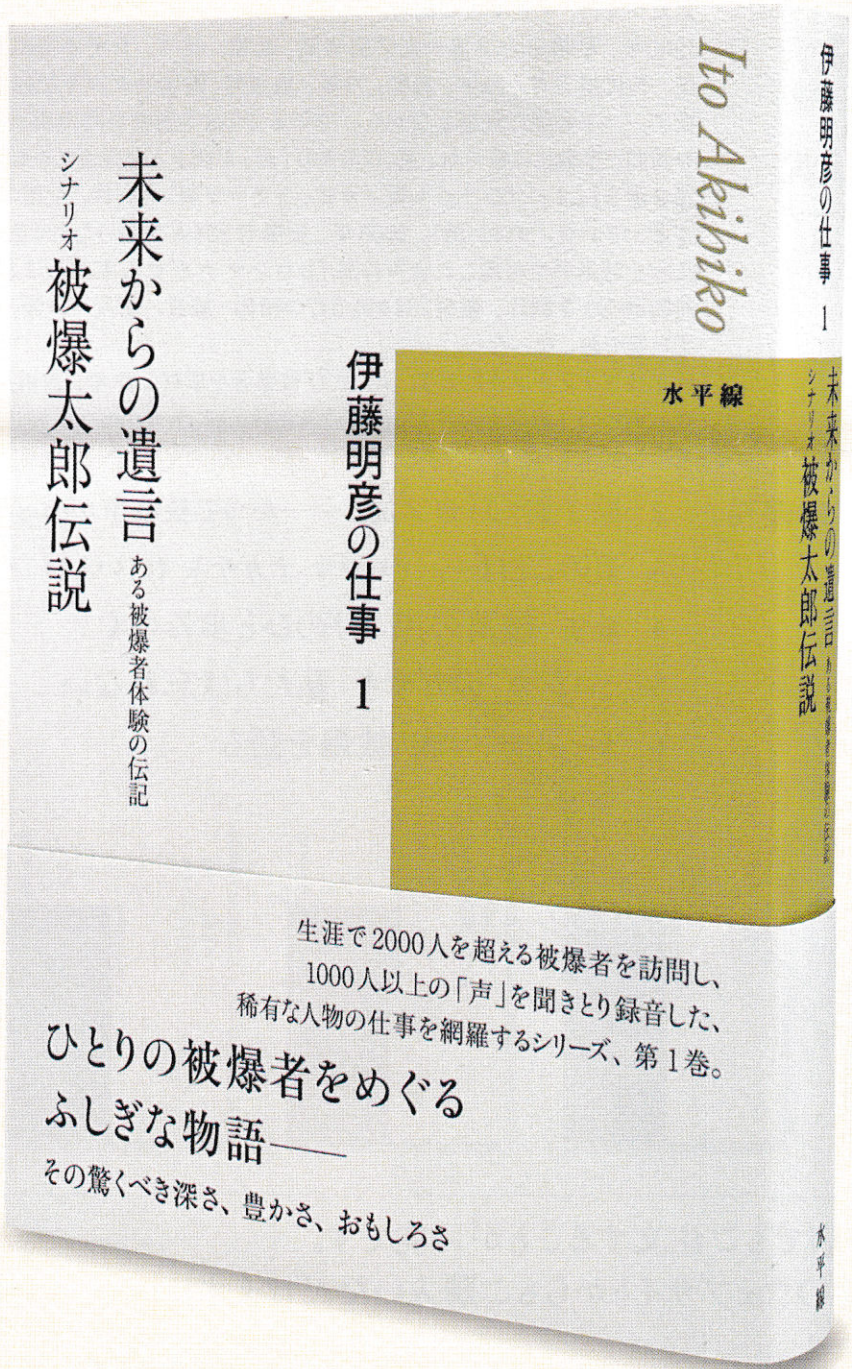


被爆者の「声」を聴き、  
伝えることに人生をかけた。

生涯で2000人を超える被爆者を訪問し、  
1000人以上の「声」を聞きとり録音した、  
稀有な人物の仕事  
網羅するシリーズ、第1巻。

Ito Akihiko

伊藤明彦の仕事 1



未来からの遺言

ある被爆者体験の伝記

未来からの遺言  
ある被爆者体験の伝記  
シナリオ 被爆太郎伝説

シナリオ  
被爆太郎伝説

四六判／並製／356ページ  
定価 [本体2,200円+税]  
ISBN978-4-909291-07-3

2024年12月刊

編集室 水平線





**伊藤明彦の仕事 1**  
**未来からの遺言**  
 ある被爆者体験の伝記  
 シナリオ  
**被爆太郎伝説**

四六判／並製／356ページ  
 定価 [本体2,200円+税]  
 ISBN978-4-909291-07-3

「この物語の主人公と、周辺の人々の本名をあかすことはできません。その理由は、この文章を最後まで読んでくだされば、お判りいただけると思います。いまから九年前収録され、ある場所に眠っている三巻の録音テープ。このテープのなりたちをめぐる事実を、自分の記憶が正確なうちに書きとめておくために。そしてもしできることなら、この文章を読んでくださるあなたにも、この録音テープをめぐるふしぎを、私といっしょに考えていただくために。」(『未来からの遺言』序文より)

被爆者の体験を記録する作業に取り組んでいた著者は、長崎で被爆した吉野啓二さんの話に深い感銘を受ける一方で、それとは矛盾するある思いを抱いた。吉野さんの語りを、自分はどのように受けとめたらよいのだろうか――。

被爆者という存在のありよう、原子爆弾と人間との関係の本質を問いかける『未来からの遺言』と、これをもとに創作された『シナリオ 被爆太郎伝説』との合本。

**伊藤明彦 (1936-2009)**

東京生まれ。元長崎放送記者。

1960年、早稲田大学第一文学部卒業、就職。68年、ラジオ番組『被爆を語る』を企画・提案、初代担当者。70年、退職。71年、東京で「被爆者の声を記録する会」を結成。早朝・深夜のパート労働に従事しながら、79年までの8年間で全国21都府県の被爆者およそ2000人を訪問、半数には断られ、約1000人の「声」を聞きとり録音。これらをもとに、音声作品『被爆を語る』(オープンリール版/カセットテープ版)を制作、全国の平和資料館・図書館等へ寄贈(13か所/944か所)。2006年、被爆者284人が語った394話の肉声をつづって被爆の実相を時系列で再現した音声作品『ヒロシマ ナガサキ 私たちは忘れない』(CD9枚組、約8時間40分)を制作、複製764組を547の団体・施設・個人へ寄贈・贈呈。以上の作業はすべて自費でおこなった。

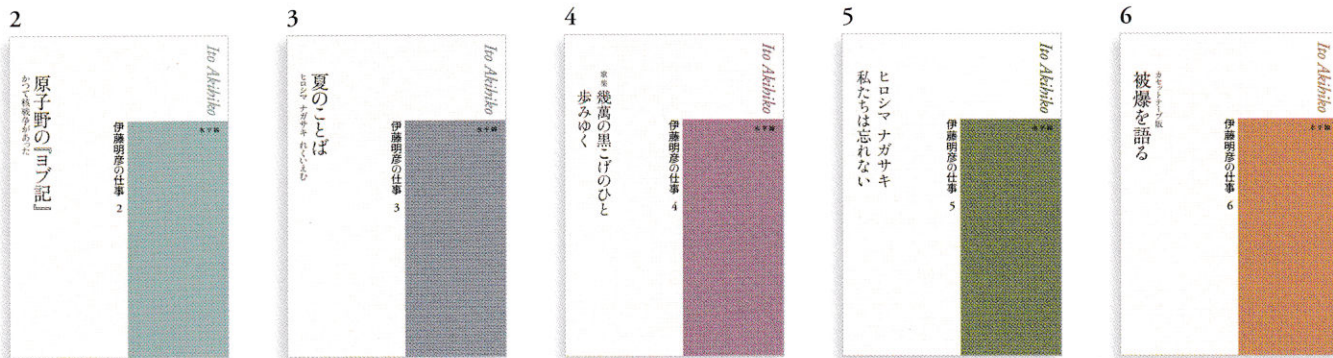
晩年はビデオカメラにより、ふたたび被爆者を取材。08年、吉川英治文化賞受賞。

ウェブサイト「被爆者の声」<http://s20hibaku.g3.xrea.com/>

*Ito Akihiko*

●**続刊**

- 2 原子野の『ヨブ記』——かつて核戦争があった
- 3 夏のことば——ヒロシマ ナガサキ れくいえむ
- 4 歌集 幾萬の黒こげのひと歩みゆく
- 5 ヒロシマ ナガサキ 私たちは忘れない
- 6 カセットテープ版 被爆を語る



全国のどの書店でもご注文することが可能です。  
 編集室水平線のウェブサイトからもご購入いただけます。

【お問い合わせ】  
**編集室 水平線**

〒852-8065 長崎県長崎市横尾1丁目7-19  
<https://suiheisen2017.jp/contact/>

編集室水平線ウェブサイト

